



連続シンポジウム

巨大災害から生命と国土を護る ―二十四学会からの発信―

第一回 今後考えべきハザード（地震動、津波等）と規模は何か

二十四学会が集結して、東日本大震災に対する反省と今後の抜本的な見直しに際し、学会の壁を越えて、本質的な議論を展開する連続シンポジウムを行います

日時：平成二十三年十二月六日（火）午後二時から午後五時三十分 入場無料

会場：日本学術会議講堂（東京都港区六本木七丁目二十二番地三十四号）

（東京メトロ千代田線 乃木坂駅 出口5）

主催：日本学術会議 東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会

プログラム

14：00-14：15

- 司会 目黒公郎（日本学術会議連携会員、東京大学教授）
挨拶 大西 隆（日本学術会議会長、東京大学教授）
家 泰弘（日本学術会議会員、第三部部长、東京大学教授）
趣旨 和田 章（日本学術会議会員、土木工学・建築学委員会委員長、東京工業大学名誉教授）

14：15-15：45

第一部 基調講演

- 島崎邦彦（東京大学名誉教授、元日本地震学会会長、日本学術会議連携会員）
今村文彦（東北大学教授、前日本自然災害学会会長、日本学術会議連携会員）
大西 隆（東京大学教授、元日本都市計画学会会長）

16：00-17：30

第二部 パネルディスカッション

- コーディネータ 米田雅子（慶應義塾大学特任教授、日本学術会議連携会員）
パネリスト
基調講演者3名に加えて
濱田政則（早稲田大学教授、元土木学会会長、日本学術会議連携会員）
和田 章（東京工業大学名誉教授、日本建築学会会長）

連続シンポジウム（予告）

- 平成24年1月開催 第2回 大災害の発生を前提として国土政策をどう見直すか
平成24年2月開催 第3回 減災社会をどう実現するか

今後のテーマ（検討中）

- 「首都直下地震、東海地震等の巨大地震と津波に、今日どう備えるか」
「大震災を契機に地域・まちづくりのあり方を考える」
「地盤災害の軽減のために何が必要か」
「原子力発電の安全性をどう評価するか」
「大震災発生時の教訓と記録をどう伝えるか」等

申込先：参加希望（第1回）と明記し、所属、氏名、所属学会名とともにメールでお申込下さい Email: sympo.ndm@gmail.com

問い合わせ先：早稲田大学准教授 小玉 乃理子 Email: kodama@aoni.waseda.jp

東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会

（議長 和田章）

東日本大震災を受け、日本の国土・社会・産業基盤に関わる二十四の学会が集まり、平成二十三年五月に結成。従来の専門分化した学会のあり方を見直し、学会間の本質的な議論と交流を深めることにより、今後の我が国の学術の方向と基本政策を提言することをめざす。

- 環境システム計測制御学会、空気調和・衛生工学会、こども環境学会、地盤工学会、地域安全学会、地理情報システム学会、土木学会、電気学会、日本応用地質学会、日本機械学会、日本建築学会、日本原子力学会、日本コンクリート工学会、日本災害情報学会、日本地震学会、日本地震工学会、日本自然災害学会、日本水産学会、日本造園学会、日本地域経済学会、日本都市計画学会、日本水環境学会、農業農村工学会、廃棄物資源循環学会

